

ニューズレター

★NZ旅行&太鼓クラブ日本訪問特集号★

第4回豪NZ訪問 2004.10.25～

「2004年ニュージーランド旅程記録」宮本由紀子

10月25日(月)	午後4時、名古屋空港国際線ターミナル南側セキュリティー荷物預け場に集合。予定の6時30分より早めに離陸。
10月26日(火)	オークランド空港に朝9時予定より約20分早く着陸。インターシティのバスターミナルへ。ロトルア午後4時15分着。ロトルア泊。2日間泊まる。
10月27日(水)	盲人協会ロトルア支部訪問 地獄門 ハムラナガーデン ポリネシアンスパ
10月28日(木)	ワカマル湖 ホワイトモ土蚩 オトロハンガのキウイハウス。ハミルトン泊。
10月29日(金)	小山さん オーストラリアへ。ハミルトンのワイカト河畔 パラナパーク 軍人のメモリアルパーク ダーガビル。トラウザンカウリ公園 カウリコーストトップテンホリデイパーク泊(2泊)。
10月30日(土)	ホリデイパークで森林浴、ウナギ釣り 夕食はうなぎ丼、BBQ 夜、森のナイトツアー。
10月31日(日)	ワイボウアフォレスト タネマフタ(森の神 最も高い巨木) オマベル棧橋で釣り。ラウェネからコフコフまでフェリーでショートカット 90マイルビーチ。古代カウリ王国 カイタイア泊(2泊)。
11月1日(月)	ケーブレインガの北端岬 90マイルビーチで貝探し。
11月2日(火) 3日(水)	各種ツアー、クルーズ、山歩き、釣りなどをする。パイヒアワイタンギ いるかクルーズ ワイタンギ奈約記念館 難破船博物館。ワイタンギ(2泊)。
11月4日(木)	フェリーでラッセルへ、捕鯨船基地と歴史的建造物 ケリケリのストーンストアとケンプハウス。ワークワース泊。
11月5日(金)	ファンガレイフォールズ オークランド市内見学とショッピング オークランド泊。
11月6日(土)	藤田さん、松本夫妻 オークランド 8時30分発 帰国。オークランド テームズ(ワイオム) モーテル前で釣りなど ワイオムベイ泊。
11月7日(日)	テームズ コロマンデル コルビル泊。
11月8日(月)	コロビル ファンテールベイ ポートジャクソン フレッチャーパーベイ。ポートチャールズ ストーンベイ ワイカワウケネディーベイ。コロマンデルタウン泊。
11月9日(火)	ワイアウウォーターワークス フィティアンガ マランギビーチ。マーキュリーベイ泊(2泊)。
11月10日(水)	フェリーランディング フィティアンガロック ロックウォール クックスベイ
11月11日(木)	ホットウォータービーチ(引き潮時のみ楽しめる)。タイルアではじめてテイクアウトのランチをとる。スクウェアカウリ(1500年の巨木15番目)、テームズ(タラル)泊。
11月12日(金)	オークランド ニュージーランド盲人協会訪問 オークランド泊。
11月13日(土)	8時30分 オークランド空港発 15時50分 増田兄弟、宮本夫妻名古屋空港着。おつかれさま。



インターシティバスターミナル



ストーンビー



ファンガレイフォールズ

2005年度総会予告

日時：5月21日(土)・22日(日)

場所：三重県宮川村フォレストピア

アトラクションとして「豪NZを話そう会」(仮称)

5～6人の話題提供者を募集しますので、皆様のご協力をお願いします。お話は、一人10分程度。協力いただける方は、宮本まで。電話 0593-68-2112。なお、日曜日は、緑滴る宮川村の散策を考えています。ご意見をお寄せください。(宮本)

宮本忠「2004年NZ訪問日誌」(一部抜粋)

10月25日(月)

4時、名古屋空港国際線ターミナル南側セキュリティ荷物預け場に集合。旅行リーダーの増田陽一さんから航空券の配布を受け、手続きに入った。手続き完了後、打ち合わせ。みんな外国旅行慣れしているのととてもスムーズな進行。協会の外国旅行初参加の藤田美代子さん、増田進一・陽一兄弟、松本正博・勝子夫妻そして宮本忠・由紀子夫妻の計7人いずれも元気一杯。小山良一さんは、仕事の都合で昨日オーストラリアに出発し、明日、オークランド国際空港で落ち合うことになっている。残念なことは、直前の入院により、北出勲さんが参加できなくなったことだ。北出さんは、今回の旅程とほぼ同じところをレンタカーで、すでに単独旅行しており、そのとき得た情報を細かく記して出発前に陽一さんに手交してくれていた。これが実に役に立った。夕方離陸予定の6時30分より早めに、ニュージーランド航空機は力強くとびたつた。中部国際空港(セントレア)が、2月17日、伊勢湾上の常滑市沖にオープンする。協会の海外旅行の名古屋国際空港利用も、これが最後になりそうだ。



11月12日(金)

テーマズのモーターを出て国道2号線から1号線に入った。ボケノである。朝10時20分。まったくの快晴。直進すれば、ハミルトン。左にハンドルを切れば、オークランド。3週間の旅路も終わりに近づいてきた。レンタカーは、マウントウエリントンハイウエーを快走している。先日、羊とともに昼食を食べたカントリーヒルズが見えてきた。グリーンレーンイーストにくると、さすがはニュージーランド最大の百万都市、オークランド。車が渋滞し始めた。11時過ぎ。きょうの目的のオークランドドメインにきた。ここは市の中心部にある'緑のオアシス'と呼ばれているところ。ウインターガーデン、シダ園、オークランド博物館と戦争記念博物館がある。以下の行動は、来年に予定されている三重豪NZ協会後援によるJRPS三重のニュージーランド旅行の下準備を主として記す。11時半オークランド博物館の受付で Bruce Kenny (Manager-Tourism and Market Development) を紹介される。彼から博物館のガイドや見所を案内され、帰国後に詳細をeメールで詰めることにした。そして無料で博物館を見学させてくれた。ケリーさんが勧めたマオリのミュージックショーもなか仲良かった。博物館の前庭のベンチで昨日まで持ち歩いてきたパンやハムやレタスを昼食にした。博物館から徒歩10分ほどでアウヒナハウス、ニュージーランド盲人協会本部ビルディングに着いた。JRPSは視覚障害者の団体である。ビルの1階に総合受付があった。ビルには、この他オークランド地域支部、補助具サービス、職業サービス、財務そして本部がある。図書サービス、カフェテリア、体育室、リクレーションセンターなどもある。三重支部の河原会長さんから、現地の人との交流の機会を作って欲しい、といわれているので、本部事務長さん(女性)に話すと「本部ツアーをしたらどうですか」と提案された。ニュージーランドの福祉政策は進んでいるので、即座に同意した。いずれにせよ、明日、帰国する。後のことは、やはりeメールで連絡し合う事にした。便利な世の中になってきたものだ。(2005年2月20日記)



「ニュージーランドの旅(魚釣りの話)」増田進一

今回の旅行は出発前から違った楽しみを持って準備をした。それは、旅行計画を受け取った時、ウナギ釣り、棧橋での釣り、モーター前での釣りなど各所に魚釣りの計画が入っていて、自称「釣りキチ」の私にとってはワクワクの旅行になりそうだったからである。釣りのニュースソースは、今回も同行予定で先にノースランドからコロマンデルまで釣りをしながら一ヶ月余り単独旅行をされた松阪市のK氏と聞き、持って行く竿、リール、釣り針などを教えてもらって準備し出発した。

出発直前になってからK氏が突然に体調を崩し入院・手術をされ、釣りの師匠が同行されなくなって大いに戸惑ったが、まあ、何とかなるだろうとリュックに竿やリールなど3組を詰め込み出発した。



最初の釣りは、5日目のキャラバンパークでの夜のウナギ釣りとなった。出発前から川にはウナギが沢山いるから、それを釣って明日の夕食は「ウナギ丼」を作ることになっており、釣り担当としては責任重大だった。来る途中で、道に迷ってキャンプ場には遅くに着き、夕食を済ませた頃にはもう真っ暗で竿釣りはあきらめて、つけ針漁（餌を付けた針を一晩川につけておく漁法）をと、6本の針と餌を準備してサンダル履きでロッジ裏すぐの川に向かった。ズボンをめくり水深30cmの石が多く流れの速い川にザブザブと入り、オモリにする小石に針の付いた糸を結んで2本を投入後、置いてあった針と餌を持ちに帰りに上がる。2m位先のヘッドランプの中に赤くランランと光る4個の目玉がこちらを見ていた。びっくりして再び川に飛び込んでライトを照らしてよく見る。ポッサムと思われる2匹の野生動物が釣り餌を狙ってやって来たらしい。水を掛けて追い払ってから再びオモリを求めて川の中を歩く。水中に垂らして手に持っていた糸がグイグイと引き込まれるではないか。波立っていてよく判らないが何か餌を取りに来ている。思わず足の指は噛まれる気がして背筋がゾー。大急ぎで近くの岩に飛び乗った。よく照らして見るといるいる、大きなウナギが。既に持っている針には1尾釣れている。先に投入した針を見ると2本共ウナギが掛かっている。

このように一人でテンヤワンヤの内に1尾に逃げられ2尾をゲット、ロッジのダストボックスに水を入れ収納した。川に向かってからこれまでの時間はわずかに10分程度の出来事で、これなら明日の「ウナギ丼」は楽勝と、この日は中止とした。

翌日は朝から川に行くと30~40cm位のマスと思われる魚が群れて泳いでいるのを見つけ、エサ釣り、ルアー釣りで狙ってみたが何も釣れなかった。午後になってからウナギが釣れ始め、宮本会長の奥さんの釣ったのを含めて3尾をゲット、昨夜のものを含めて5尾を今夜の食卓用に確保して責任を果たした。

後は一人でマスを狙ってのんびりと釣っているといきなりすごい引き。なかなか姿を見せない。苦闘の末、引き上げるとなんとお寿司屋さんの湯のみ程の見たことも無いオバケウナギだった。散歩していた老アベック2組が「ビッグワン」と拍手をしてくれたがとても食するには？ましてウネウネと暴れるし、大きすぎて持ちも下げもできないありさま。仕方なくアベックの前でリリースすることになった。

これを最後に納竿とした。次は予定通り夕食の「ウナギ丼」に挑戦することになったが、ロッジにあるナイフではウナギは料理できない。持参したエサ切り用の小刀で2人のM氏と、一人がフォークで頭を押さえ、一人が胴体を押さえ、一人がナイフで切るという3人がかり。暴れるウナギを押さえたら「グーグー」と鳴いた。それこそ悪戦苦闘の末に5尾を料理。大きいので完全に火を通すためにまずは白焼きにして、次に持参した醤油、砂糖でM氏が調合したタレでカバ焼きを作り、出来上がった「ウナギ丼」は日本のウナギとは一味も二味も違うシロモノ？でも皆さんはウナギ丼以外に食べるものが無いから、我慢して食べてくれた。感謝、感謝。しかし、後に宮本会長の平成17年年賀状に「ウナギ丼など、もう、ウナギは見たくない、食べたくない、とみんな思ったにちがいない」と書かせたほど、良きにつけ悪しきにつけ強烈な印象を与えたウナギ釣りだった。

その後の日程では各所で貝拾いや海釣りでもボラの一種やイワシの類など小物を捕って、焼いたりムニエルにしたりして、モーターでの食卓に並べることができた。後半は4人が残り、コロマンデル半島を一周することになり、マダイやシマアジの大物が釣れると言われる本格的な釣り場で食材確保の自炊旅行を楽しんだ。マダイ27cm、シマアジ25cm以下はリリースが義務づけられており、違反すれば5万ドル？の罰金と聞き、大物を狙ったがサバに似た魚（30cm）、ベラ（20cm）など雑魚は良く釣れたが、本命のマダイ・シマアジはリリースサイズばかりだった。

驚いたことは、宮本会長の奥さんが竿やリールの扱いが上手なことだった。始め、「私も釣りたい」と言われたとき教えるのにしばらく時間がかかるかな、と思っていたらいきなり教えることなくスムーズに目的の場所にキャスト、釣れた魚の取り込みも上手で、夕食の食卓に並んだ大アジ（刺身、煮付け）、大サヨリ（刺身）、シマアジ小（煮付け）などを沢山ゲットして食卓に並べてくれた。宮本会長も不自由な体で急峻な崖を歩いて、ゴツゴツとした岩場の磯に出て、竿を持って大アジ、シマアジ小、ベラなどをゲットしてくれた。

コロマンデル最後の日に、弟と2人で最後の挑戦。行きにはサヨリなど小物しか釣れなかったチームズ北の磯場で夕方から、この釣りの最大の目的であるニュージーランドのマダイを狙った。サヨナラ満塁ホームランのごとく、見事に35cmを頭にマダイ7尾をゲットして、大満足の楽しい「釣り三昧のニュージーランド旅行」を締めくくることができた。

これも一重に計画をしてくださいました宮本会長はじめ同行させてくれた皆様のお蔭と深く感謝しております。ありがとうございました。次回も是非参加させていただけますことをご期待申し上げます。



ウナギのかば焼

「2004NZの味覚」宮本由紀子

「ねえ、ねえ、虹マスの餌は何？ どうしたら釣れるの？」

「釣るのも楽しいでしょうが、眺めるのを楽しんだら。」(enjoy watching)

トランザンカウリフォレストにあるホリデイパークの女主人との会話です。コテッジのまわりを流れる川でウナギ釣りに興じ、金色に体をくねらせて(ある人は銀色という)群れている虹マスを眼で追いかけていました。釣り三昧の旅はウナギ釣りから始まりました。釣り隊長とナビゲーターの増田兄ちゃん、どこへでも運転して行く陽一さんのおかげで、地球も釣りましたがサバ、アジ、縞アジ、タチウオといろいろな魚を私は釣りました。ナマコも小エビも採りました。サバの輪切り、イワシ1匹を釣り餌にしている人たちに混じって日本式の針と餌をつけ、どんどん釣り上げどんどん逃がしました。魚の種類により大きさや量が決められているからです。最初は釣れることに喜びを見だしていたのですが、そのうちに質にかわりボラやベラが釣れると落胆の声があがるようになりました。3本の釣り竿で釣り上げた成果を、刺身用、煮魚用、バター焼き用と下準備する調理師兼任の釣り隊長さんはいつも大忙しでした。ワイタンギで出かけたパイヒアの「オンリーシーフード」というレストランの魚料理は私たちには不評でした。刺身(Raw Fish)は酢やココナツミルクで味付けしたもの、魚ステーキ(Gamefish)は何と甘い味付け、正解は生牡蠣やゆで海老の盛り合わせ(Seafood Platter)でした。帆立貝のベーコン巻き(Scallops Bacon)を注文した藤田さんは、デザートのように甘いのでびっくりして、周りの人に味見させていらしたようでした。Gamefishを注文した増田兄さんは、支払い後にレジでもらった小さなフルーツチョコレートがとてもおいしかったとか。なんでもおいしい会長は文句のない魚料理だったとか。大皿にきれいに盛り付けしてあっても味付けが私たちにはあわず、がっかりでした。それに比べて、たとえボラでも自分たち流のしょうゆを主とした味付けは美味でした。



自炊最後のテーマズ タラルの晚餐はステーキでとモーターで準備していました。増田兄弟は最後の釣りにでかけました。ニコニコ顔で帰ってきました。「釣れちゃったのよ」と進一さん。「何が???鯛が???それ冗談???」と私。トコ箱から何匹もの鯛がこちらを見つめていました。「呼びに来てほしかったわ、私も鯛を釣りたいわ」と言いましたら、「そんなああ、アホなこと言わんといてー」とびっくりした陽一さんの眼が応じました。鯛とステーキの贅沢な夕食になり、翌朝も鯛、昼にはかたすぎてナイフなしでは食べるのが難しいからサイコロステーキにしてと、それまでのにんじんやセロリをかじりジャムやハチミツぬりのパン食とは雲泥の差になりました。ごちそうさま。

「ニュージーランド旅行に参加して」藤田美代子

今回の旅行、私には、初めての海外旅行となりました。海外旅行には、幾度となく行っていましたが、今回のNZ協会の個人旅行の経験が初めてだったのです。今迄は行きたい国を選んで参加するというバック旅行を利用していたからです。地図を見ながら車を走らせ、アコモデーションを選び、限られた食材からの食事作り、オークランドからの旅の始まり、大振のシャクナゲの歓迎を受けたロトルア、またスパ、ティキテレの地獄巡り、ワイトモケーブでは鍾乳洞、ツチボタルの天井を埋め尽くす神秘的な美しい光、飛べない鳥キウイ。緑の続く牧草地、TOP10ホリデイパークの巨大うなぎ、このうなぎで食したような井の味わい、90マイルビーチのどこまでも続く砂丘、海岸線での波の響き、貝拾い、カウリの森では千年も二千年も生きてきたカウリの巨木に神秘を感じ、ケーブレインガからどこまでも続く青い海では遠く彼方を想い、ワイタンギでは、イギリス人、先住民のマオリとの歴史を感じ、パイヒアからのホエールウォッチングとフィッシュ・アンド・チップス、何とも甘く味付けされたホタテ料理、ラッセルのきれいな町並み、ケリケリのストーンストア、大都会オークランドに戻り、ショッピングマーケットでのアートの色使いに感心し、今迄、旅をしてきたノースランド地



方との異なりにとまどいを持ち、等々、いろいろな事を見聞しました。日頃は毎日、忙しい日を送っておりますが、この見聞を広げた事を日頃の生活に生かしたいと思っています。又、次の出会いを楽しみにしたいと思います。後になりましたが、今回お世話になりました足手まといの私とお付き合い下さいました宮本先生御夫妻、リーダーの増田様、増田兄様、松本御夫妻、四日市の小山様、皆様に心より御礼申し上げます。



北島最北端



アンディ名誉市長夫妻

「リリルのうさそと」川柳
小山良一

海と空 オークランドは 港町
星の国 大石楠花が 美を競い
露天風呂 心を癒す 星の空
土はたる 神の計らい ワイトモに
ロトルアで 足湯使って 疲れとり
スバの湯は 湖眺め ドルかきみ
協会で 名誉市長と 手を握り
(平成十六年十月 ニュージーランドにて)

タスマニア大学タイコクラブ日本訪問

タスマニア大学タイコクラブの、三重大学での演奏会、交流会の様子は、三重大学人文学部のホームページから見られます：

<http://www.human.mie-u.ac.jp/shakai/>



タスマニア大学タイコソサイアティ来三概要

1. 訪問者

タスマニア大学タイコソサイアティ (UTASTS)

会長 サイモン パンヤイ 秘書 マリア グリスト

訪問者人数 8名 (三重県在住 UTASTS 会員 1名を含む)

UTASTS 住所 : University of Tasmania Taiko Society Po Box 950 Sandy Bay, TAS 7006

2. ホスト団体・法人

総合窓口 三重オーストラリア・ニュージーランド協会

鈴鹿市岸岡町 2626 の 95 電話 0593-68-2112

国立大学法人三重大学学務部国際交流課・人文学部国際交流委員会

津市上浜町 1515 電話 059-232-1211

いなべ市国際交流協会事務局 いなべ市平塚 535 電話 0594 - 78 - 4848



3. UTASTS 訪日の目的

和太鼓の打法技術などの習得、現代日本の理解及び伝統の研究

和太鼓ワークショップ参加

日本の和太鼓クラブとの交流

日本の姉妹都市・協会・大学そして地域住民などとの友好親善及び文化交流

三重には上の目的の他、しめ太鼓贈呈の返礼

4. UTASTS と三重の関係

三重大学とタスマニア大学は、姉妹大学関係にあり、両大学は、毎年、教育と学術交流を行っています。三重大学に留学していたサイモン パンヤイ氏やスティーブン・ウィット氏がタスマニア大学に帰って、UTASTS を設立しました。三重オーストラリア・ニュージーランド協会は、岡田文化財団や多くの人々からの浄財をえて、新品のしめ太鼓などを UTASTS に寄贈しました。タスマニア大学で行われた贈呈式には、会長以下 15 名が参加、現地のマスコミにも大きく取り上げられました。現在タイコクラブは、大変な人気でタスマニアのイベントに引っ張りだこと聞いております。清流太鼓とウィット氏は、三重豪 NZ 協会・日本 NZ 協会中部協議会において和太鼓演奏を披露しました。いなべ市の旧大安町はタスマニアのニューノーフォークと、毎年、子供たちを中心に交流を重ね、また寿会はニューノーフォークにおいて和太鼓を高らかに響かせ、タスマニアの人たちに感動を与えました。

5. 旅程

1/27,28,29 大阪府池田市 3泊。池田市はタスマニア州第2の都市ローンセストンと姉妹提携。

1/30 京都 1泊

1/31、2/1,2 静岡県焼津市。焼津市はタスマニア州都ホバードと姉妹提携。

2/3,4,5 三重 3泊。

2/3(木) 午後來三 神谷文子宅にて茶会など。

2/4(金) 伊勢神宮神楽殿など参拝 午前。井ノ口節子、神谷文子、西村功(三重豪NZ協会)および中村則子(伊勢観光協会)が案内。三重大学講堂大ホールにて午後3時より和太鼓演奏。飯高清流太鼓が協賛。関東、近畿などからの参加者を含め約200名聴衆(中日新聞2005年2月6日)。その後、交流パーティ(第二食堂) 大盛会参加者約80名。

2/5(土) いなべ市大安スポーツ公園体育館にて午前10時より和太鼓演奏交流会。大安寿太鼓、山口竜華太鼓そして北勢女太鼓。正午より、中央公民館2階大会議室で交流パーティ。和太鼓メンバー、日沖市長以下市関係、出口いなべ市国際交流協会会長他会員、宮本三重豪NZ協会会長他会員10名など多数。盛会。

2/6 いなべ市ホームステイから桑名市の中村太鼓店見学。

2/7~12 長野県阿智村にて和太鼓ワークショップ

「タスマニア大学太鼓クラブを迎えて」西村 功

2月3日(木)

14:00 鈴鹿神谷宅でタスマニア ビジットの全員お茶会(茶道)

17:00 私たちはジェームス君を迎えに行く(鈴鹿市・神谷宅へ)。お茶会(茶道)は初めての体験で楽しかった、と話していた。

18:10 自宅(四日市)着。部屋に案内し荷物を整理。

18:40 次男隆宏が「寿司」の差し入れ、12人で食事会始まる。ジェームス君は明日誕生日で20才になる。日本では20才からアルコールが飲める。1日早いかと確認した所、オーストラリアは18才からOKとのこと。ウロン茶を用意したがビールに変更「乾杯」する。パンも用意したが、箸を上手に使い「美味しい」と言いながら食事する。「寿司」を差し入れた隆宏も満足そうだった。

20:20 長女尚子の夫弘樹君が用意したタイコのビデオを見る。弘樹君は8才よりタイコを叩いていて22年のキャリアがあり、「諏訪太鼓保存会」でも若手のリーダーで子供達を指導しているので、タイコの話も弾む。弘樹君が「樫の木で作ったバチ」をプレゼントすると、嬉しそうに何度もお礼をいい、バチを持ちタイコの叩き方の仕種をする。

21:50 「節分の豆まき」を行う。尚子の子供拓也に鬼の面をかぶらせ私が抱き上げ鬼になる。「鬼は外、福は内」と豆を当てると、拓也は、きゃきゃと喜ぶ。「自分の年齢だけ豆を食べる」と話をする。彼は19個の豆を食べた。子供の時はもっと食べたいとねだったが、今年は才の半分だけ食べた。「お爺ちゃんに成ったね」と子供達が笑ったが...

22:20 浴室に案内し、入浴方法を説明した。妻がぬるめに用意したので、スイッチを教え(おい焚き)をジェスチャーで説明した。ドイツ人を泊めたとき、浴槽の中で洗い全部排水した経験から、日本式入浴方法で入浴させた。寒い時だから良かったと思ったが、「少し狭かった」と言っていた(明日は温泉



文章内 写真1 再会!

でゆっくりして、と妻がいう)。

23:00 明日 7:00 起床を伝え部屋に送った。ジェームス君と弘樹君が同じ部屋で寝る。翌朝弘樹君から聞いた話ですが、疲れていたのかすぐに寝付いたとのこと。尚子と東京から来た木下さんは居間で 2:00 ごろまで話をしているコタツでごろ寝した様子。木下さんとは、一昨年のタスマニア大学へのタイコ贈呈旅行のときに会った。

2月4日(金)

7:00 全員起床。尚子と木下さんが眠そう。拓也が元気一杯。味噌汁、卵焼き、焼き魚、ご飯で朝食。ジェームス君が日本食を食べてくれるので、妻は助かると言っていた。

7:30 弘樹君の車で近鉄四日市駅へ 5 人を送って頂く。きょうは、伊勢神宮参拝の日。弘樹君は職場へ。宇治山田駅までのキップを購入しホームへ。昨日井ノ口さんと神谷さんに 3 号車の前に乗車と連絡してあったので、そこに乗る。白子駅で神谷さん、津駅で井ノ口さんが乗車しホームステイの全員も集合した。OK! さい先の良いスタート。

9:15 近鉄宇治山田駅到着。タクシー 3 台に分乗し内宮へ。井ノ口さんが依頼して頂いた中村則子様(伊勢市観光協会)にお逢いし、長い砂利道を歩き神宮を案内して頂く。中村さんは 50 代の人、英語で案内して頂いたので、皆さん良く理解出来たと思う。正宮で「2 礼 2 拝 1 礼」の方法を教えていただき全員参拝した。(以前マレーシアから来たイスラム教の人を受け入れた時に、榊神社へ行った。参拝しなかったが?!)

10:45 神楽殿で「三重オーストラリア・ニュージーランド協会」で登録し、祈祷して頂く。全員初めての事だと思うが、ちゃんと正座し神妙な態度で祈祷を受けていました。(中村さんも全員正座するのを見て驚いていた。めずらしいと!)太鼓・琴・箏(ひちりき)・舞楽など雅楽の観賞が出来る機会にも恵まれ良かった。私自身久し振りに祈祷して頂き、心が清められた思いになった。その後「皇室」から送られた白馬を見ながら帰路についた。孫の拓也はジェームス君に肩車をして頂いた。拓也のお父さんから「バチ」を頂いたお礼にと...。そんなに嬉しかったのか?と太鼓への興味の深さを感じた。記念写真を撮ったので大切に保存し、拓也が成長したら思い出話をしてやろう。宇治橋を渡り外へ出た所で、「良い旅を、又来てください」と中村さん、「案内有難う」とタイコのメンバーが挨拶し中村さんと別れた。商店街を見ながら、「おかげ横丁」まで歩いた。平日なのに沢山の観光客が来ていた。さすがお伊勢さん! 時間がだいぶおしているのでも 1ヶ所で食事するのを中止し、12:40 に集合で 40 分のフリータイムとし、それぞれ好きな物を食べた。私達は「伊勢うどん」と「いなり寿司」を食べた。拓也もうどんをつると美味しくそうに沢山食べた。井ノ口さんが来た時のタクシーに迎えを依頼してあったのでスムーズに移動出来た。(タクシー 3 台で宇治山田駅へ 13:05 到着)

13:16 帰りは少しはずんで「近鉄特急」に乗る。土産に買った「手焼きセンベイ」をみんなに回して食べながら・・・楽しい車中。しかし疲れて少しウトウトしていた私。津駅からタクシーで三重大学講堂へ。裏門からはタクシーが講堂まで行ける(初めて知った!)。集合時間の 14 時の 2 分前に到着(さすが旅なれた井ノ口さんのナビ!アリガトウ)。

14:00 三重大学講堂には既に、宮本夫妻、松本夫妻、増田さんが来ていて再会を喜んだ。その後茨城県の倉形さん、滋賀県の立石さん、名古屋の天野夫妻の、遠い所から来ていただいた協会員と、タスマニアの話になった。短い時間で有ったが、楽しく有意義に過ごす事が出来た。

15:00 「ドドン、ドン」とタイコの熱演披露(三重大学講堂大ホール)開催に先立ち亀岡国際交流担当理事と宮本(三重オーストラリア・ニュージーランド協会)会長の挨拶の後、タスマニア大学タイコ

クラブと飯高清流太鼓の和太鼓の演奏が行われた。後期の試験が始まる日と重なったが、三重大の教職員や学生ら 200 人が耳を傾けた。はじめにタイコクラブが「飯高清流太鼓」から太鼓を借り、2 曲を披露、続いて「飯高清流太鼓」が 3 曲披露、特に笛と太鼓の演奏曲



はリズムカルな印象であった。井口人文学部長が挨拶で三重大を交流の場として「太鼓を通したコミュニケーション」が深く私達の心に刻まれることを願いたい、と挨拶され、メンバーをホームステイした家族として、心を打たれた。リーダーのサイモン君は「気持ちよく演奏できた。今後も和太鼓の魅力をオーストラリアで広められるように頑張りたい」と話していた(2月6日の中日新聞より)。

16:30 演奏会の興奮がさめやらぬなか、三重大学生協第二食堂で井口人文学部長の乾杯の音頭で交流会が始まった。(三重大大学の負担で無料) 寿司、サンドイッチ、おでん、など沢山の料理が真中のテーブルに並び、脇のテーブルにビール、ジュース、お茶など並んでいた。サイモン君がスライドでタスマニアの活動の様子を紹介すると、「飯高清流太鼓」で笛を吹いていた人が、私達日本人より「太鼓」を理解している、と話されたのが印象的であった。交流会は、約 80 名の参加者があり、和やかな雰囲気の中、大いに盛り上がり、あちこちで交流の輪が広がっていた。タスマニアからの留学生や三重大からの派遣学生にとっては思い出深いものとなったようだ。タスマニア大学のタイコクラブに「和太鼓贈呈式」



のツアーの時ジェ - ムス君の家で、倉形さん、立石さんが、ホームステイした事が有り再会を楽しんだ。(写真 - 1) 最後に記念品の交換、花束の贈呈を行い交流会を終了した。タクシーを呼んで 18:40 に津駅に到着。明日勤務の為東京へ帰る木下さんを見送った。弘樹君が 19:20 に津駅に向かえに来て、四日市へ。

20:30 四日市の自宅に着く。忠祐夫妻が「スキヤキ」を料理していてすぐに、ジェ - ムス君の 20 歳の誕生パーティが始まる。まずビールで「乾杯」し全員で歌を唄った。今日の行動を忠祐夫妻に話、家族的な会話が弾んだ。ジェ - ムス君の兄弟は、男、男、女、男の 4 人兄弟で一番下。兄弟の構成がうちと同じ 4 兄弟で、二人はよろしくと改めて握手する。今日の伊勢神宮参拝の話や、三重大で演奏のとき弘樹君からプレゼントされた「バチ」を使用したことを話した(弘樹君も満足そう)。「バチ」の握りやタイコを叩く話が続く...。ジェ - ムス君はキャンベラ大学へ行き中国語を勉強し、将来「外交官」を目指し、世界各国へ行きたいと希望を語った。オーストラリアは、今、日本と中国のお陰で鉱山関係の景気が良い。(最近鉄の需要が高く鉄鋼石の価格が上昇とのニュースがあった)その後笛と太鼓の話になり、妻が篠笛を持ち出し吹くとジェ - ムス君の目の色が変わった。ジェ - ムス君が吹くが音が出ない。しばらく繰り返し「ピー」と音が出た。皆が出た、出た！と拍手する。ジェ - ムス君も嬉しそう。音が出たので妻が「笛」をプレゼントした。ジェ - ムス君は「笛」を胸に抱えて喜んでいて。この時、木下さんが東京へ着いたと連絡あり、機会があれば再会したいと話し、ジェ - ムス君も電話に出て「笛」の事を話していた。今夜は忠祐夫妻のお陰で、私達もジェ - ムス君を囲んで安心して食事が出来た。

22:50 弘樹君はジェ - ムス君達の明日のタイコ演奏を楽しみにしていたが勤務になり非常に残念とい

い、ジェ - ムス君と別れの握手をした。拓也がコタツの中でよく寝ている。伊勢神宮や三重大学とまわり疲れただろう。尚子が抱き 3 人で帰った。明朝 8:00 起床。8:50 荷物を持って移動するので荷物の整理を指示し、寢床に送る。

2月5日(土)

8:00 朝食後庭の「水琴窟」を案内し、構造図のコピーを見せ説明する。幅 50cm、高さ 90cm の瓶を逆さに埋め 10cm 位の水位で保たれていて、そこに水滴が落ちる音が出るジェ - ムス君が勺で水をかけ、「ピロン」「ポアン」と音が出るたびに不思議そうな表情で首を傾け聞きながら、ワンドフルを連発していた。「水琴窟」は江戸時代に作られた日本の水文化の原風景で、日本庭園に造られる水音を楽しむ仕掛けで、約 400 年の歴史があると話すと、ジェ - ムス君が 400 年前？と。オーストラリアでは建国 200 年を 25 年前に祝ったのに！

8:40 妻に見送られ、いなべ市へ。忠祐の車で自宅を出発。

9:20 大安町スポーツ公園体育館に到着。付近にはまだ雪が残っている。(2月2日四日市で 5cm の今年初めての積雪があり、いなべ市は 18cm の積雪と新聞で見知っていたが、1 日ずれていれば自動車で行動出来なかった) 天気まで味方してくれたようだ！宮本夫妻、井ノ口夫妻、松本夫妻、神谷親子のホストファミリー全員が体育館に集合する。広い体育館は凄く寒かった。大きなガスストーブ設置されストーブに群がり暖を取った。今日も参加して頂いた茨城県の倉形さんとタスマニア旅行の時、寒くてサラマンカマーケットでストッキングを購入し装着した事を話し、楽しかったタスマニア旅行の思い出に浸った。

10:20 いなべ国際交流協会の出口会長、いなべ市の日沖市長の歓迎の挨拶のあと、いなべ市内の寿太鼓、龍華太鼓、北勢おんな太鼓の紹介とタスマニア大学タイコクラブの紹介があり、宮本会長のお礼の挨拶の後、演奏会が始まった。各太鼓クラブがそれぞれ 2 曲ずつ演奏し交流を深めた。その後タスマニア大学タイコクラブのリーダー「サイモン君の提案」で広い体育館にタイコを丸く配置し、各タイコクラブの人々がタイコを叩く。「ドンドコドン」、「トントコトン」と。言葉の障害を乗り越え、リズムで交流出来たのが印象的であった。

12:00 いなべ市中央公民館 2 F 会議室で交流会が開かれ、タスマニア大学タイコクラブのメンバーを紹介した。その後メンバーが各テーブルに入り、食事をしながらなごやかな交流が続いた。特に寿太鼓のメンバーはオーストラリアと交流が長く、相互に訪問や受け入れの様子が、話題の中心になっていた。その後タスマニア大学タイコクラブのメンバーに記念品を贈呈し交流会を終えた。

14:00 いなべ市のホストファミリーにメンバーを引き継ぎ、松本夫妻の車で自宅まで送って頂き帰宅した。車中で、パケツを叩いたり、樽を利用して太鼓を作ったり・・・し、タイコクラブのメンバーが成長していくのを知り喜びを感じた。一昨年、タスマニア大学タイコクラブへの「和太鼓贈呈式」に参加出来た事が、良い思い出になったと話した。



「再会 タスマニア大学和太鼓チームの思い出 ～自宅でのミニ茶話会のことなど～」 神谷文子

宮本先生から一年前タスマニアで出会った人々が訪問されるとお聞きし、あの懐かしい人々と再会できるのだと喜びを感じました。一年半前、彼らは私たちのタスマニア訪問の際、ホームステイさせてくださり、またタスマニア大学などでの演奏では新鮮でビートのある音を聞かせてくれました。

今回、先生からホームステイファミリーのピックアップまで時間があるよといわれ、自宅でのミニ茶話会を提案させていただきましたが、念願かなって、鈴鹿入り直後に全員の方でいらしていただくことができました。とはいっても、英語力がいまいちな私、母もその友人も総動員して、日本文化の紹介とおせちやお正月飾り、そして緋毛氈見立てのミニ茶会を計画しましたが、思いがけず好評でほっとしました。長身な彼らにとっては狭い我が家で長時間座したままの姿勢だったのでかなりしんどかったことと思いますが、皆さん礼儀正しい方ばかりで最後までお付き合い頂き何よりでした。最後にはホームステイファミリーも参加され、また翌日の演奏会のためにここで秘かな太鼓練習も行われ(その成果は皆さんも三重大学やいなべ市のタイコパフォーマンス会場で十分お聞きになられたことと思います。)夕方まで大いに盛り上がりました。この機会に、一昨年タスマニアでホームステイさせていただいた、



ジェームズ・ビューティ君にも再会できました。今度はお兄さんのマーティンも一緒に。彼らも二年ぶりの再会だそうでその再会の地が日本だったそうです。

リーダーのサイモンさんとは、私は一昨年タスマニアに訪れた際、お目にかかっています。そこで、サイモンさんが以前三重大学の留学生で、私と同じ建築学専攻、隣の研究室だったことを聞かされて、二度びっくりしたことを覚えています。(そういえば以前三重大学で一度お会いしたこともあるような記憶もある?) ということで彼には同じ分野として親近感を感じています。またサイ

モンさんの尊敬する和太鼓の世界的奏者である林英哲先生は私の元の職場(三重大学地域共同研究センター)で客員教授として3年ほどお見えでした。私は先生の担当をさせていただきましたので、そこで初めて和太鼓という楽器に触れ、このワークショップで、現在美杉村にお住まいのスティーブン・ウィットさんともお会いしました。彼ともまた稀有な再会だったと思っています。

翌日は、伊勢神宮参拝のあと、三重大学で和太鼓公演と交流会がもたれました。会場にも遠方から多くの皆さんがお越しになり、一昨年タスマニア旅行した際のメンバーとも再会することができ私にとってもまるで同窓会のような一日でした。

最後にホームステイしていただいたララとアナのことを少しだけ。ララとアナから、ホームステイは、その家の家族のあるように過ごすということをお教えいただきました。ホストファミリーと同じものを食べ、ララたちはお皿も気軽に洗ってくれました。一昨年のタスマニア旅行ではあまりそうしてこなかったことなど思い起こし、反省。ララたちとはまた、別腹や、年齢の話などでもりあがってしまいました



たが、女性にとっては洋の東西を問わず若さと美貌の話題は世界共通のようでした。わずか二日間でしたけれど、別れる時はやはり寂しくて、帰りの車中、日本で卒業式によく歌う歌として、To Be Friends Forever (いつまでも絶えることなく、友達でいよう) を口ずさんで別れました。世界の向こう、地球の裏側に、もうひとつの家族がいるのだと思いながら...

宮本先生からサイモンたちがワイン樽の手作り太鼓で練習に励んでいるということをお聞きしたときから、こんな展開が待っているとは思いませんでした。私自身は根っからのオンチで音楽や楽器演奏にはあまり関心をもっていませんでしたが(それでも太鼓は小学校の鼓笛隊以来ですのでやはり他のものより好きだったのかもしれませんが)、今度のタスマニアの人々との再会、タスマニア旅行、そして和太鼓募金活動に至るまで、何かとても不思議な縁を感じています。ここでお会いできた沢山の方々、初めての方、再会できた方々に感謝申し上げたいと思います。

それからまたキーワードになった和太鼓ですが、林英哲先生の事務所から、今度映画を製作されたと連絡がありました。伊勢でも上映されるそうですので、ぜひまた多くの方々にご覧いただけたらということでした。そのタイトル、その名も「朋あり」だそうです。和太鼓を通じて、友達の輪が広がっていくようです!!

「豪州大使館昼食会(報告)」立石智保

去る11月5日(金)、オーストラリア大使館の昼食会に行ってきました。愛知万博オーストラリア館の宣伝を兼ねた昼食会です。オーストラリア大使館が東京の三田に在ることもあって、東京に住む僕にチャンスが巡って来たという訳です。まずご報告しておくべきことは、あのイアン・ソープも招かれていたということでしょう。驚きました。信じられない位大きな手をしていました。握手の一つでもお願いすべきでしたが、すっかり大人の雰囲気にもまれた会場の雰囲気に萎縮した僕は、ただぼんやり遠くから見つめるだけでした。残念。食事はビュッフェ形式で、ドリンクはビールに赤白各ワイン、シャンパンといったものでした。皆様に良いご報告をすべく赤ワイン以外は全て試しましたが、特に白ワインが気に入りました。もう一人の特筆すべきゲストは今回の万博オーストラリア館のマスコットに「カモネ」という命名をしたお嬢様でしょう。PRも兼ねて日本で名前を公募したようです。マスコットを見て頂くとお分かりになるはずですが、よくマスコットの雰囲気を表すネーミングです。快晴のなか日本風庭園で行なわれた昼食会は終始なごやかで気持ちのよいものでした。(2004年11月21日記)

た川となすつくがてのちん今
(さんおつた見でき、の思!の回
棍)も詫し部とくす、な!でも内
。おびま原をく、な!でも内
疲しい稿おな書か削りだ
れままが詫っ面削りだ
様すし抜びてがのピク
で。た粹しし細こと
し長ことままか

《編集後記》

< 事務連絡 >

会費未納の方は納入をおねがいします。
百五銀行津市役所出張所
ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920
新たにEメールでの配信をご希望の方
& fax0593-68-2112 宮本まで。

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会
編集責任者 宮本忠 Tel/Fax 0593(68)2112
〒510-0226 鈴鹿市岸岡町 2626-95
HP : <http://www.ztv.ne.jp/yosshi/>
Eメール : ty1005@mecha.ne.jp

